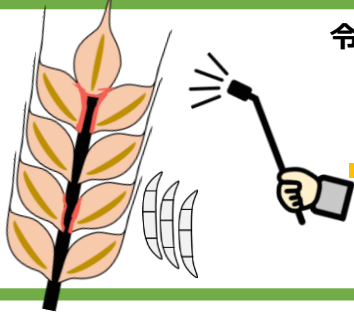




ムギ類赤かび病を適期に防除しましょう！

令和6年3月11日発表 広島県西部農業技術指導所

赤かび病は人畜に有害なかび毒を産生する病害であり、農産物規格規定では、普通小麦及び強力小麦のうち一等、二等のものには赤かび病が0.0%（1万粒中4粒）を超えて混入してはならない、とされています。中国地方1か月予報（3月7日発表）では気温が高くなる見込みとなっており、出穂時期が早まることが予想されます。防除時期に注意しましょう。

防除適期（表参照）

- 赤かび病は開花期に最も感染しやすいため、防除は開花始めとその7～10日後の2回防除を行いましょう。開花始めは、小麦では出穂から約7日後、大麦では出穂から約3日後です。但し、二条大麦は葯殻抽出期とその7～10日後の2回防除を行いましょう。
- 気温により出穂状況が前後するため、ほ場をこまめに巡回し、確認しましょう。

		開花始め	※葯殻抽出期（二条大麦の場合）	
小麦	防除	1回目 ←→ 2回目		
	出穂後日数	7	7～10日間隔	14～17
六条大麦、キラリモチ	防除	1回目 ←→ 2回目		
	出穂後日数	3	7～10日間隔	10～13
二条大麦	防除	1回目 ←→ 2回目		
	出穂後日数	13	7～10日間隔	20～23

開花始め：1穂につき数花開花しているものが、全穂数の10～20%に達した日。

葯殻抽出期：穎の先端から葯殻が押し出される時期

防除薬剤について

- 薬剤散布については、農薬使用基準（使用量、希釈倍数、使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底してください。なお、最新の農薬情報は、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」の「農薬登録情報提供システム（<https://pesticide.maff.go.jp/>）」を参照してください。



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151
東広島市八本松町原6869
TEL：082-420-9662（直通）



ひろしま病害虫情報

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>)

ホームページ
リニューアル！

